

 <p>Viet Nam</p>	学校名：佐倉市立南志津小学校	
	氏名：本木 淳也	● 実践教科等：社会科 ● 時間数：13時間 ● 対象生徒：小学校3年生 ● 対象人数：32人
	[担当教科：全教科]	

1 単元名 農家の仕事

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

- ・農家の人々の工夫が誰にとって、どのようなメリットをもたらしているのか、そしてそれに対してデメリットを受ける人はいないのかを考えることができる。(批判的に考える力)
- ・地域には農作物の生産にかかわる仕事があり、消費者により良いものを届けたいという思いをもって作っていることやそうした人たちの努力が自分たちの生活を支えていることに気付くことができる。そして、そのような工夫や思いが込められた農作物を大切にしようという思いをもつことができる。(つながりを尊重する態度)
- ・「農作物と自分」や「ベトナムの農作物と日本」、「ベトナムの農業と日本の農業」がどのようにつながり、関わっているのかを考えることができる。(多面的、総合的に考える力)

3 単元の指導について

(1)教材観

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年の以下の内容を受けて設定されたものである。

(2)地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

- ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。
- イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり。

千葉県は農業総産出額が全国第4位(平成28年生産農業所得統計)であり、農業が盛んな県である。その中で、佐倉市はやまといもの生産を特色としている。本単元では、佐倉市教育委員会作成の副読本「わたしたちの佐倉市」を用いながら、結び合い農園の生産の様子と国際協力機構技術協力プロジェクトの1つであるベトナムの「北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト」(以下「安全作物プロジェクト」)の様子を取り上げて学習を行っていく。

結び合い農園は、佐倉市内で「全体的な安心・安全」、持続可能な農業を目指し、少量多品目で季節の野菜を無農薬で生産し地元を中心に販売している農園である。また、月に2回程度、結び合い農園から野菜を仕入れ、本校の給食に使われている。

ベトナムでは、農業の近代化によって農産物生産が拡大しているが、それに伴い残留農薬による食中毒や土壌汚染などが問題となっている。さらに、出所不明の野菜に「安全野菜」のシールを貼るなどの偽装表示も起きている。そこで、ベトナムの農産物の安全性を向上させるために安全作物プロジェクトが行われている。また、日本にとってベトナムは中国に代わる野菜の生産地として注目されている。生野菜としてスーパーマーケット等に並ぶことはほとんどないが、なすやおくら、さつまいもなどが主に業務用の冷凍野菜として日本に輸入されている。つまり、知らず知らずのうちに食べているが実は私たちと関わりのある野菜なのである。さらに、2018年12月30日より、環太平洋パートナーシップ(TPP)協定が発効され、今後ベトナム等の外国産の農作物はますます日本に入ってくるのが予想されている。

以上のように捉えていくと、本単元のテーマである「農業」は環境や経済など幅広い側面があり、SDGsの全てに関連しているということが分かる。なお、第5学年において、日本の食料生産の様子や運輸などについて学習するため、本単元では、農作物の生産に従事する様々な人々の工夫や思いを読み取ることに重点を置き、指導をしていく。また本単元の学習を総合的な学習の時間においてフードロスと土壌生物を利用した持続可能な土づくりの学習につなげていく。

(2) 児童観

本学級の児童は社会科への興味や関心が高く、社会科の学習を「好き」「どちらかという好き」と答えた児童(30人)の理由として、「新しい発見がいつもあるから。」と答えた児童が非常に多い。自分の知らないことを知ることができるという事に喜びを感じていることが分かった。また、「野菜を選ぶ時に何を大切にするか。」という質問に対し、「値段」「見た目」「大きさ」「安全」「おいしさ」の中から「安全」を選んだ児童が最も多く、45%であった。その理由として「安全だと安心して食べられる。」「毒とか入っていたら食べられない。」が挙げられた。さらに、「日本産とベトナム産の野菜が売られていたら、どちらを選ぶか。」という質問に対しては、全員が「日本産」と回答し、その理由としてベトナム産の野菜は「見たことがない。」「食べたことがない。」「ちょっとこわい。」「変なものはいっているかもしれない。」などが挙げられた。これらのことから、食への安全意識が高いものの、安全であるかどうかを判断する力は低く、イメージが先行していることが分かった。また、外国産のものを口にしているという実感がないということも分かった。

(3) 指導観

本単元では、農作物の生産と自分の生活のつながりに気付かせることが大切である。そこで、教科書や副読本の情報だけではなく、実際に学校給食で自分たちが食べている野菜を生産している結び合い農園の丹上さんの取り組みを扱っていく。フォトランゲージをしながら、丹上さんの工夫を見付けるとともに、そのような工夫をしている背景にある思いを読み取らせていきたい。そして、丹上さんに学校で講演をしていただく中で、直接生産者の思いに触れさせていきたい。

実態調査の結果から、ベトナム産の野菜に対して否定的に捉えている児童が多い。しかし、その考えを裏付けているものは、「～かもしれない」という憶測である。そこで、JICAのプロジェクトに関わっている人々の工夫と思いに触れさせる中で、より良い作物を消費者に届けたいという思いは日本の生産者と変わらないことに気付かせていきたい。そして、客観的な事実から安全であるか判断させていく力を付けさせたい。なお、フードマイレージ等の観点から考えると、ベトナム産よりも日本産を選択する方が望ましい。しかし、児童の発達段階を考慮し、この点については強調しないこととする。

私たちが日々どのような食べ物を選択し、消費しているのかが、生産地の環境や経済等に影響を及ぼしている。しかし、児童は農作物の選択をする機会は限りなく少ない。実際に購入するのは、保護者だからである。そこで、本単元末に学習したことを保護者に伝え、意見を聞く活動を設定する。保護者に伝えることを通し、改めて佐倉市内の生産者・結び合い農園の丹上さん・JICAのプロジェクトに関わる人々の工夫や思いをもう一度捉え直させたい。

4 評価規準

観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象につい ての知識・理解
評価規準	農家の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べている。 農家の仕事と自分の生活とのつながりを考えようとしている。	農家の仕事の工夫や思いを資料から読み取っている。	資料から読み取ったことやインタビューして分かったことを基に報告書にまとめている。	農作物の生産にかかわる仕事は国内外を問わず自分たちの生活を支えていることを理解している。
評価方法	・行動観察 ・ワークシート	・発言 ・ワークシート ・報告書	・発言 ・ワークシート ・報告書	・発言 ・ワークシート

5 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	佐倉市で作られる野菜	佐倉市の農業生産の特徴を読み取る。「よい野菜」とは何かを考え、単元全体の学習問題を設定する。	・野菜カードを収穫量順に並べ替え、佐倉市の農業生産の特徴を読み取る。 ・「よい野菜」とはどんな野菜なのか考える。
		「よい野菜」を作るために農家の人はどんな思いをもって、どんな工夫をしているのだろうか。	

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

2	佐倉の米作り	佐倉の米農家の工夫と意思を読み取る。	・フォトランゲージで農家の工夫と意思を読み取る。 ・農薬使用とアイガモ農法のメリットとデメリットを考える。
3	佐倉の野菜作り	佐倉のかぼちゃとやまといも農家の工夫と意思を読み取る。	・農作業カードを並び替えて、佐倉かぼちゃの作業年表を完成させる。 ・フォトランゲージで農家の工夫と意思を読み取る。
4	結び合い農園の野菜作り	結び合い農園の工夫と意思を読み取る。	・グループ毎に選んだ写真をフォトランゲージし、工夫と意思を読み取る。 ・他のグループへの発表資料を作る。
5			・各グループのフォトランゲージで読み取った工夫と意思の発表を聞く。
6			・結び合い農園の丹上さんに質問したいことを考え、全体でまとめる。
7			・丹上さんの話を聞く。 ・前時でまとめた質問事項を聞く。
8			・前時に分かったこと、考えたことをまとめ、全体で共有する。
9	米や野菜が家に届くまで	収穫された米や野菜が家に届くまでにどこに送られるのかを考える。	・スーパーマーケット、直売所、個人販売の米や野菜が家に届くまでの流通経路を知り、それぞれの特徴を考える。
10	ベトナムの野菜作り	ベトナム産野菜に対するイメージを明確にするとともに、ベトナムの農業の問題点について知る。	・ベトナム産野菜に対するイメージを書き出し、全体で共有する。 ・残留農薬問題や産地偽装問題について、記事から読み取る。
11	ベトナムの野菜作り	ベトナムで安全作物プロジェクトに関わる人々の工夫と意思を読み取る。	・フォトランゲージで工夫や意思をグループ毎に発表する。 ・映像等を通し、プロジェクトに関わる人の安全作物の生産に対する意思を知る。 ・日本とベトナムの生産者の意思を比べ、共通点を見付ける。
12	報告書作り	これまでに学んできたことを振り返り、報告書にまとめる。	・これまでに学んできたことを振り返る。 ・何を保護者に伝えたいのかを明確にして、報告書にまとめる。
13	学習のまとめと振り返り	報告した結果を共有し、学習のまとめをする。	・お互いの報告書を読み合い、学習のまとめをする。

6 授業事例の紹介

小単元名【ベトナムの野菜作り】

(1) 指導案

(ア)実施日時 12月5日(水)第5限

(イ)実施会場 3年2組教室

(ウ)本時の目標

- ・安全作物プロジェクトに関わる人々の仕事の様子に関心をもち、工夫や意思を意欲的に読み取ろうとする。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・安全作物プロジェクトに関わる人々の仕事の工夫や意思を資料から読み取ることができ、日本とベトナムの生産者の意思を比べて考えることができる。 (社会的な思考・判断・表現)

(エ)指導のポイント

- ・前時にベトナム産野菜へのマイナスイメージを膨らませた上で、安全作物プロジェクトの取り組みを取り上げていくことで、安全な野菜を作ることが決して「当たり前」のことではないという事に気付かせたい。
- ・一方的に工夫を伝達するのではなく、フォトランゲージを通して、児童自身が工夫や意思を読み取れるようにする。その際に、ヒントカードを与えたり、個別に声を掛けたりしていくようにする。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

- ・ベトナムで活動されている方々の思いをより伝えるために、映像資料やプロジェクト関係者からのメッセージを使用する。
- ・前時までに読み取ってきた日本の農家の工夫や思いを掲示物として、教室内に掲示することで、本時の学習との比較が行えるようにする。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
3分	1 前時の確認	・前時にまとめたベトナムの野菜に対するイメージや新聞記事の内容を思い出す。	一斉	・プロジェクターを用いて、前時までの資料を提示しながら、前時の確認をする。	
2分	2 学習問題の設定	・学習問題をつかむ。	一斉		
ベトナムの農業にかかわる人々はどんな思いをもって、どんな工夫をしているのだろうか。					
2分	3 学習問題に対する予想を立てさせる	・前時までを振り返りながら、本時の学習問題に対する予想を考える。	一斉	・前時にまとめたベトナムの野菜に対するイメージを振り返って予想を考えさせる。	
7分	4 ベトナムの農業	・グループ毎に安全作物プロジェクト活動写真を配付し、工夫とその背景にある生産者の思いを読み取り、ワークシートに記入する。	グループ	・児童だけの読み取りが難しい場合には、ヒントカードを渡し、参考にさせる。	・安全作物プロジェクトに関わる人々の仕事の様子に関心をもち、意欲的に工夫や思いを読み取ろうとしているか。 (関/行動観察・ワークシート)
18分	5 考えたことの共有	・グループ毎に写真から読み取った工夫と思いを発表する。	全体	・読み取りに不足があった場合には、他のグループにも考えさせる。	
8分	6 安全作物プロジェクト関係者の思いを知る	・プロジェクト関係者のインタビュー映像とメッセージを見聞きし、写真から読み取った内容と比べて考える。	一斉	・映像には字幕を付けることで、理解の助けになるようにする。 ・メッセージを読む際には、書いた人の写真を提示する。	・日本とベトナムの生産者の思いを比べて考えているか。 (思/発言・ワークシート)
5分	7 本時のまとめと今後の学習問題の提起	・日本とベトナムの農業に関わる人々の思いの共通点を読み取る。 ・「ベトナム産野菜＝危険」というイメージは必ずしもその通りではないということに気付かせる。	個人 一斉	・前時までの学習掲示物と本時の学習を比較させることで、日本もベトナムも消費者により良い野菜を提供しようと工夫と努力を重ねていることに気付かせる。 ・工夫と思いをもって生産した物が、廃棄されている写真を提示することで、フードロスの学習への動機付けとする。	

(2) 授業の振り返り

【成果】

- ・前時までに学習した佐倉市の農業と結び合い農園の農業の工夫や思いと比べながら、学習を進めることで、子どもたちは共通点や相違点を容易に見つけ出すことができた。
- ・前時にベトナムの農業の問題点について学習したことで、安全作物を作ることが「当たり前」のことでなく、そこに農家の方を始めとした多くの人々の努力があることに気付くことができた。

【課題】

- ・「6安全作物プロジェクト関係者の思いを知る」活動では、流通や農家の方との調整に関する内容があり、子どもたちにとっては難しい内容であった。「思い」という点に焦点化を図る必要があった。
- ・映像資料は情報量が多く、子どもたちの多くは処理しきれないでいた。キーワードを黒板に貼るなど、補助資料が必要であった。

(3) 使用教材

- Farmers take health risks to boost income(05.05.2012):VietNamNews,
 <<http://vietnamnews.vn/agriculture/224319/farmers-take-health-risks-to-boost-income.html#TdD3YVPjAx7wTZve.99>>(参照日:2018年11月22日)
- Killing pests, chemical substances killed the soil as well(02.14.2018):VietNamNews,
 <<http://vietnamnews.vn/society/422966/killing-pests-chemical-substances-killed-the-soil-as-well.html#XCmuAhr1O8zikhj7.99>>(参照日:2018年11月22日)
- Parents worried about pesticide-laden veggies(10.25.2017):VietNamNews,
 <<https://vietnamnews.vn/society/416191/parents-worried-about-pesticide-laden-veggies.html#rb1VCVdiChy9S6C.97>>(参照日:2018年11月22日)
- 「北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト」ニューズレター及び活動写真, 関係者へのインタビュー動画とメッセージ
- 授業内で使用した安全作物プロジェクトの写真(一部)



(4) 参考資料等

- 「平成 30 年・31 年わたしたちの佐倉市 3・4 年用」/佐倉市教育委員会
- 「百姓仕事で世界は変わる 持続可能な農業とコモンズ再生」/ジュールス・プレティ/築地書館 /2006 年
- 「平成 28 年生産農業所得統計」/農林水産省/2016 年
- 「千葉県農林水産業の動向-平成 30 年度版-」/千葉県/2018 年
- 結び合い農園 HP<<http://musubiaifarm.wixsite.com/musubiaifarm>>(参照日:2018年10月30日)

7 単元をととした児童生徒の反応/変容

<児童の感想から>

- 生産者の思いへの気付き
 - 「野菜を作るために, 色々な人が心を込めて作っていることがよくわかった。」
 - 「日本もベトナムも少しでもさらにおいしくしようと頑張っている農家の人たちがいた。」
 - 「『安全な野菜』が当たり前のことではないんだと思った。これからは大切に食べたい。」
- ベトナム産の野菜に対する意識の変化
 - 「勉強するまでは, ベトナムの野菜は買いたくないし, 食べたくないなと思っていたけれど, 勉強をして食べてみたいと思いました。」
- 他の国の農業への興味
 - 「もっと色々な国の農業を知りたい。」
 - 「他の国では, どんな工夫をしているのか知りたい。」
- 思考力と表現力
 - 「農家の仕事の勉強をして, 考える力と考えたことを言葉にする力が付いた気がしたので, この勉強をやってよかったです。」

●他の仕事への興味

- ・「農家の仕事だけじゃなくて、色々な仕事のことももっと知りたい。他の仕事の人も思いをもって、たくさん工夫をしているのかな。」

<児童の様子から>

●外国への興味

- ・休み時間に世界地図を見たり、外国の出来事に関する本を読んだりする児童や、世界の出来事に関する話をする児童が増えた。

8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

段階	項目
P (計画)	<p>【海外派遣前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な「食」をテーマにしようと考え、SDGs2を中心に総合的な学習の時間の授業計画を立てた。 <p>【海外派遣中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの食事やJICAの安全作物プロジェクトが授業実践の核になるという意識を持ちつつも、それにとらわれず、情報の収集を行った。 ・ベトナムで活動されている方々の様子を見学したり、話を聞いたりする中で、どの方も熱い「思い」をもって、取り組んでいることに衝撃を受けた。 <p>→「思い」に焦点化を図った授業計画に変更をした。</p> <p>【海外派遣後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムや世界の事だけでなく、身近な地域での取り組みにも興味をもち、佐倉市の農業について調べた。 (栄養士へのインタビュー・結び合い農園の見学とインタビュー・JA直売所の訪問等) <p>→社会科「農家の仕事」での授業実践に変更をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とベトナムの農業を比較するために、情報量が不足し、JICA安全作物プロジェクトの担当者と連絡を取り、必要な情報をいただいた。
D (実行)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間ワークシートを使用し、写真の中から生産者の思いや工夫を読み取らせることを中心に授業を行った。 ・結び合い農園の丹上さんに農家の仕事の工夫や思いについて話をしていただいた。
C (検証)	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと知りたい」という意欲を児童が最後まで継続して学習を進めることができた。 ・毎時間の学習を掲示したことで、前時までと比べながら学習することができた。 ・この単元で学習したことを他の学習や生活に生かす児童がいた。 ・ベトナムの農業について扱うことは3年生にとってやや難しい内容であった。
A (改善)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに提示する資料の内容を精選する。 ・単元のまとめをさらに充実させるために、報告書を保護者に見せた時に、感想や意見を書いてもらい、それを学級内で共有する。

9 教師海外研修に参加して

この研修を通して国際協力について、そしてベトナムについての理解が深まったことはもちろんだが、物事の見方が変わったことも私自身の大きな変容である。ベトナムでの研修中に様々な現場を視察させていただいた。その中で例えば生活排水等によって汚染されている川は一見すると環境の問題であるが、SDGsをツールとして物事を捉え直していくと、環境だけでなく経済的、社会的な側面が複雑に絡み合っているということが見えてきた。今回学んだ物事の見方を使って、日本や世界の様々な課題にどう向き合っていくかを子どもたちとともに考えていきたい。

また、この1年間を振り返ると、私は「教員」として、また一人の「人間」としてどうありたいのかを考え続けていたように思う。それまでの私は「正解」を探し、「～をしなければならぬ」という考えに縛られていた。そんな私を変えたのは、この研修を通してJICAの職員の方、協力隊の方、ベトナムで働く方、共にこの研修に参加した仲間など、たくさんの人の熱い思いに触れることができたからである。「正解のない問い」に直面する時代を迎えるからこそ、自分がどうありたいのか、どうしたいのかを常に考え続けていきたい。